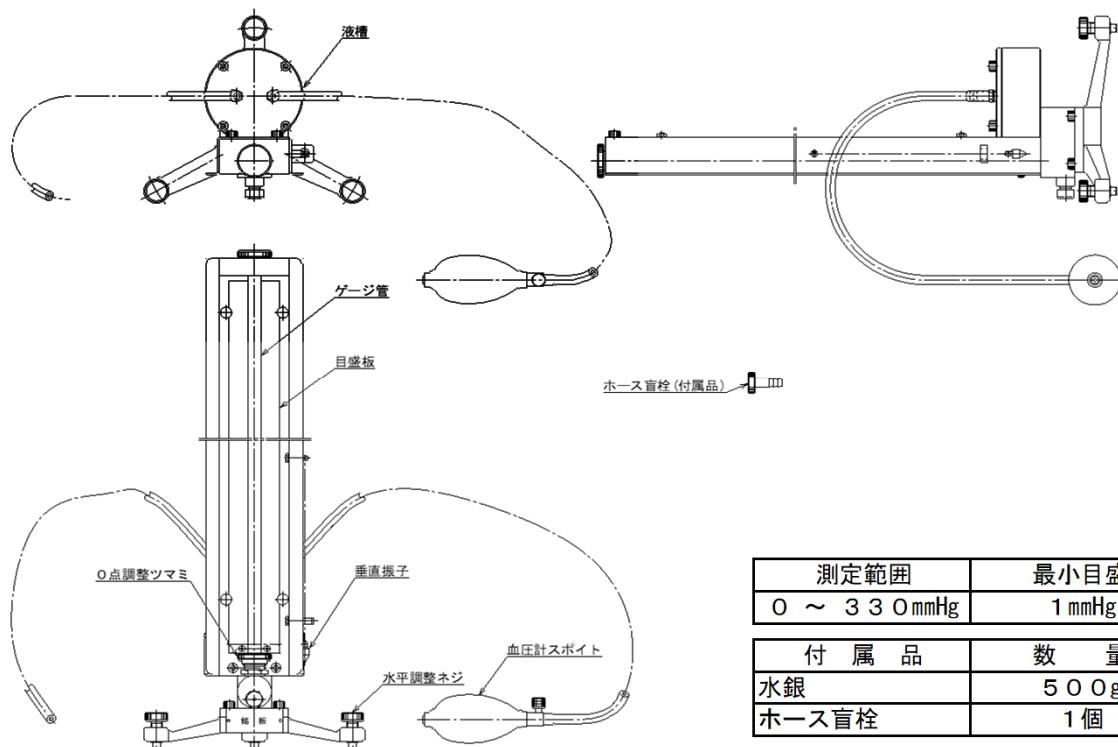


液柱型压力計取扱説明書 (A O型・A O 1型)

 株式会社 山陽計器製作所

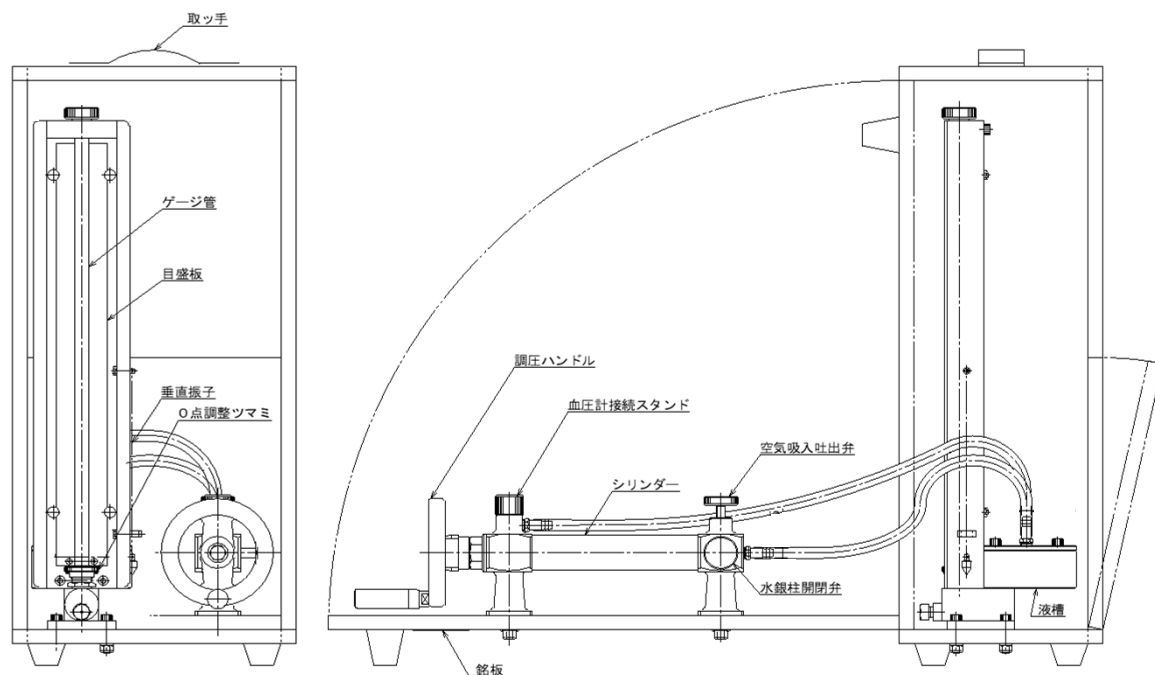
外觀図

A O 型



測定範囲	最小目盛
0 ~ 330 mmHg	1 mmHg
付属品	数量
水銀	500g
ホース盲栓	1個

A O 1 型



測定範囲	最小目盛	付属品	数量
0 ~ 330 mmHg	1 mmHg	水銀	500g
		ホース盲栓	1個

この度は、弊社液柱型圧力計をお買い上げ頂きありがとうございます。

本器は±1/400以上の精度を有しています。その機能を維持、発揮するために本紙をご一読頂き、ご使用方法の他、取り扱いや保守管理にお役立て下さい。

また、測定に使用する水銀は揮発し易く、人体に極めて有毒な物質です。取り扱い注意事項を厳守してご使用下さい。

1. 水銀の取り扱い注意事項

組成及び成分情報

化学名又は一般名	含有量	化学式又は構造式	官報公示整理番号	Cas No
水銀	99.999%<	Hg	該当なし	7439-97-6

- ・ 取扱い時には局所排気を充分に行い吸入しないようにして下さい。
 - ・ 容器からの出し入れ時逸脱しないようにして下さい。
 - ・ 取扱い時には保護具を着用し、取扱い後は手洗い、うがいを励行して下さい。
 - ・ 漏出時の措置は、拭き取りなどできるだけ取り除き、残りは水で洗い流して下さい。
 - ・ 直射日光、高温の場所を避け施錠できる冷暗所に保管して下さい。
 - ・ 基準液柱型圧力計を廃棄する際は、本体ならびに容器等で水銀の付着したものは、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して下さい。
- また、本体から抜き取った使用済みの水銀についても同様です。

誤って人体が汚染された場合は、以下の応急処置を施してください。

皮膚に付いた場合：接触部を多量の水または石鹼水で十分に洗浄する。

目に入った場合：直ちに多量の水で洗眼し、直ちに医師の手当てを受ける。

洗眼の際、眼やまぶたに残存しないように、まぶたを指でよく開き、眼球まぶたの隅々まで水がよく行き渡るようにして洗浄する。
コンタクトレンズを使用している場合には、固着していない限り取り外して洗浄を続けること。

吸入した場合：鼻をかみ、うがいをさせる。大量に吸入した場合、空気の新鮮なところに移動させ、直ちに医師の診断を受ける。

誤飲した場合：水で口の中を洗浄し、直ちに医師の診断を受ける。

※特級 水銀 メーカー安全データシート（SDS）より引用

2. 移動

納入時、水銀は漏洩防止のため水銀タンクより抜いてありますが、液柱管はガラス製ですので、移動の際は充分注意を払い、衝撃、落下等は避けて下さい。

また、輸送される場合においても同様に水銀を抜いてお取り扱い下さい。

3. 設置場所

以下のような場所に設置して下さい。

- ・ 直射日光の当たらない所。
- ・ 常温であまり温度変化が無く、湿度が高くない所。
- ・ 衝撃や振動の加わらない所。

また、水、ガス（特に腐食性）、埃、金属粉などの周辺環境にもご注意下さい。

4. 設置上の注意

十分剛性のある基礎上に、できるだけ水平に設置して下さい。

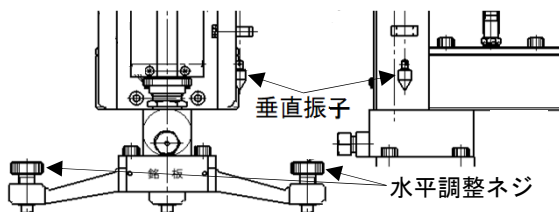
5. 操作手順

①液柱の水平出し

液柱側面の垂直振子を下ろし、振子の糸が穴中心に来るように水平調整ネジを回して必ず水平になるよう調整して下さい。

注) 液柱が傾いていると、正しい圧力の読み取りが出来ないばかりでなく、本体が転倒する恐れがあり危険です。

【AO型】



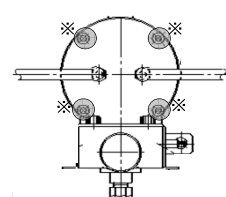
※AO1型は格納箱と一体型のため水平調整ネジはありません。水平な机等に設置して下さい。

②水銀充填

液槽上面の※●六角穴付ボルト（4カ所）を外し液槽蓋を外して下さい。次に液槽へ水銀を500g充填します。水銀量は所定量を必ず充填して下さい。少なすぎると吹き出す恐れがあり危険です。水銀は清浄なものを使用し、充填後は液槽蓋をしっかりと付けて下さい。

※A O 1型は格納箱背面の止め金具を外し裏蓋を開いて本体背面から行って下さい。

【液槽（上面）】

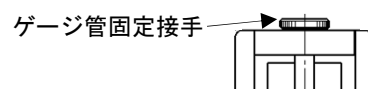


③血圧計の取付け

・A O型

水銀柱上部のゲージ管固定接手を一回転位緩めます。液槽上面に接続されたゴム管に測定を行う血圧計を取付け、もう片方のゴム管に接続されている血圧計スポイト（ゴム球）のツマミを締めます。

【水銀柱（上部）】



・A O 1型

A O型と同様に水銀柱上部のゲージ管固定接手を一回転位緩めます。空気吸入吐出弁および水銀柱開閉弁を開き、調圧ハンドルを左に（反時計回り）回転しハンドルを100～150mm程度引き出しておきます。次に測定を行う血圧計を取付けます。

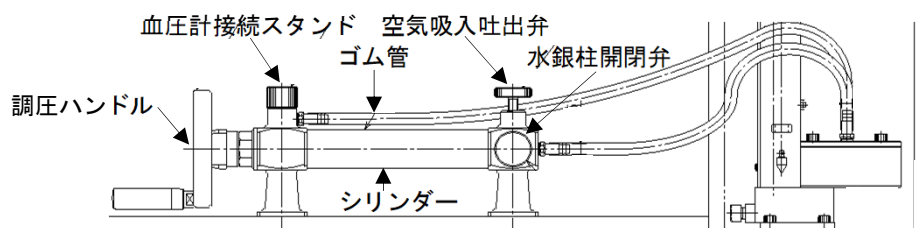
・水銀柱式血圧計の場合

血圧計接続スタンドからゴム管を外し、ゴム管に直接血圧計を取付けて下さい。使用しない血圧計接続スタンドには、埃等が入り込むのを防ぐため付属のホース盲栓を差込んで下さい。

・アナロイド型血圧計の場合

血圧計接続スタンドにゴム管がしっかり差込まれている事を確認し、血圧計接続スタンドに血圧計を取付けて下さい。

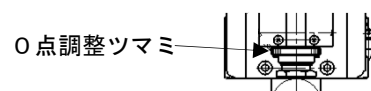
【液槽・シリンダー配管部】



④0点調整

水銀の頂点が目盛板の“0”線と一致しているか見ます。一致していない場合は0点調整ツマミを回し目盛板を下らせて一致させます。

【水銀柱（下部）】



⑤測定

・A O型

血圧計スポイト（ゴム球）のツマミが締められている事を確認して下さい。血圧計スポイト（ゴム球）を握り空気を圧縮すると加圧され水銀柱の水銀が上昇しますので、検査する血圧計の器差を検査して下さい。加圧検査が終わりましたら、血圧計スポイト（ゴム球）のツマミを静かに緩め、圧力を“0”に戻します。測定終了後は水銀柱上部のゲージ管固定接手を締めて下さい。

注）測定中は本器を傾けたり倒したりしないで下さい。水銀が流出致します。

・ A O 1 型

空気吸入吐出弁を閉じ、静かに調圧ハンドルを右に（時計回り）回転すると、加圧され水銀柱の水銀が上昇しますので、検査する血圧計の器差を検査して下さい。
加圧検査が終わりましたら、空気吸入吐出弁を静かに開き圧力を“0”に戻します。
測定終了後は水銀柱上部のゲージ管固定接手を締め、調圧ハンドルを右に（時計回り）回転し奥まで押し込みます。

※各部位の位置は5-③項の【水銀柱（上部）】・【液槽・シリンダー配管部】図をご参照下さい。

注）測定中は本器を傾けたり倒したりしないで下さい。水銀が流出致します。

⑥水銀の抜き方

A O 1 型は格納箱と一体型のため、液柱を固定している六角ボルト（4カ所）を外し、液柱を格納箱より取り出してから次の作業を行って下さい。

必ず最初に、本器の下に1㎡程度のシートまたは古紙を敷いて下さい。

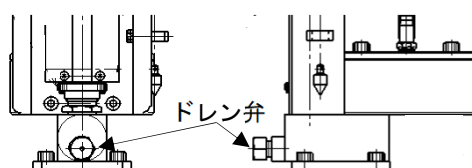
次にドレン弁の真下に専用の容器で水銀の受けを供えます。加えてドレン弁の中心穴にゴムホース等を添えるとより安全に行えます。

水銀受けの準備が出来たところで、ドレン弁をスパナで僅かに徐々に緩めていって下さい。

ドレン弁の中心穴より水銀が少しずつ流出し始めたら、そのままの状態の水銀が止まるのを待ちます。水銀が止まったら、ドレン弁を取り外して残った水銀を排出して下さい。

最後にドレン弁を本器へ取付け、飛び散った水銀を綺麗に回収します。

【水銀柱（下部）】



※「1. 水銀の取扱い注意事項」も合わせてご確認ください。

注）ドレン弁を急激に緩めないで下さい。ドレン弁取付け口から水銀が自重で勢いよく噴出し、飛散するため危険です。また、中心穴から水銀が流出しきるまでには少し時間を要しますが、面倒でも流出しきるまで待って下さい。途中で急いでドレン弁を緩めることは同様に危険ですから決してしないで下さい。

6. 証明書について

本器は校正の種類によって、その添付される検査表は異なります。
尚、弊社の製造や修理校正においては校正の種類に関わらず、全て産業技術総合研究所の基準器検査に合格できるように調整、検査しています。

・ 産業技術総合研究所による基準器検査

基準器検査成績書が発行されます。±1/400以上の精度を有していなければならず、その値は“0”と表されます。有効期間「4年間」が示されます。

※基準器検査については受験者資格が限定されています。

・ 弊社のメーカー検査

弊社名での成績書・証明書・体系図を発行致します。

・ J C S S 校正

弊社で調整および検査後に、日本品質保証機構（JQA）へ依頼することが可能です。依頼内容にもよりますが、一般的には証明書・体系図を要求して発行してもらいます。

※それぞれの詳細につきましては、弊社担当へお問い合わせご確認ください。

JKS 株式会社 山陽計器製作所

〒140-0013 東京都品川区南大井6丁目11番9号 MYハイツ201
TEL:03-3765-7481 FAX:03-3768-1930